

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	上村 一成
------	----	-----	--------------	-----	-------

1 目指す学校像

(1) 学校教育目標「つたえあい つくりあい たかめあう人」

教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、一人一人の個性の伸長と自己実現を支援する教育に努める。そのために、①安全・安心 ②専門性に基づいた教育 ③地域の中で育ち、役割を果たす学校 ④高めあう学校 のキーワードを含む学校づくりの4つの柱を掲げ、地域社会と関わりながら保護者、地域から信頼される楽しい学校づくりを目指す。

「つたえあい つくりあい たかめあう人」とは、豊かなコミュニケーションができる人、つくること、はたらくことを楽しむ人、生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人のことである。

2 目標具現化の柱

(1) <守る> 学習環境を整備・充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。

ア 安全・安心を守る学校組織の機能充実

イ 学習環境の整備

ウ 人権を尊重する教育の充実

(2) <育む> 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。

ア 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導

イ 研修による授業の充実と専門性の向上

ウ 関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実

(3) <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

ア 交流校における交流及び共同学習の推進

イ 地域における交流及び共同学習、地域資源活用の推進

ウ 地域における特別支援教育のセンター的取組の充実

(4) <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい働きやすい環境づくりに努める。

ア 信頼される学校づくり

イ 多忙化解消に向けた業務改善の推進

3 本年度の取り組み（重点目標）

(1) <守る> 学習環境を整備・充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	安全・安心を守る学校組織の機能の充実			
	(7) 防災対応体制の整備と充実	訓練には個々の教員が課題意識をもって臨み、留意点等を明らかにする。 防災マニュアルを随時、検討改善する。	自分の役割や行動について確認することができた。 防災マニュアルを検討し、改善できた。	防災危機管理課 防災対策委員会
	(4) 安全な緊急対応体制の充実	年度始めに、緊急時対応やその他のマニュアルを、机上で学ぶ研修会を実施する。その後、必要な演習を適宜実施する。	研修や訓練をとおして自分の取るべき行動が分かり、曖昧な点を確認することができた。	保健安全課
イ	学習環境の整備			
	(7) 危険箇所の点検と改善	毎月の安全点検や日常気が付いた箇所の整理整頓・報告をとおして、校内の危険な箇所や状況の確認をし、速やかに改善を図る。状況を随時報告する。	校内の整理整頓に努めた。危険な箇所や状況を確認し可能な対応策をとることができた。対応状況を共通理解できた。	保健安全課 教頭 事務担当
ウ	人権を尊重する教育の充実			
	(7) 一人一人の人権意識の向上	人権チェック表での自己チェックを実施し、集約して問題を全体に周知し修正を図る。気になる対応について具体的に確認する。 校内人権研修を実施する。	教職員が、気になる言動を具体的に確認しあい、人権に配慮した対応及び改善がなされた。	生徒指導課 各学部 各学年

(2) <育む> 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導			

ア	(7) 個のニーズに応じた指導の充実	アンケートやケース会検討をもとに、面談時に共通理解を図る。改良した教育支援計画・指導計画の効果的・効率的な活用について、検証し改善に努める。	保護者と共に教育支援計画・指導計画を作成し、指導に活用することができた。	主事会 自立活動課 学年主任会 各学年
イ	研修による授業の充実と専門性の向上			
	(7) 専門性向上のための研修	新学習指導要領理解に向けた、研修を実施する。児童生徒の実態に応じた授業実践を支えるテーマ設定・ツールの作成・グループ研修の内容等の研修体制の整備と充実を図る。	研修計画に沿って児童生徒のアセスメントを行い、新学習指導要領を踏まえた目標を設定して授業実践を行うことができた。	研修課 各学部
ウ	(イ) 情報機器を活用した授業	iPADやパソコンなどICTの授業等への活用方法や、ソフトの紹介等を定期的に行う。必要な人を対象に情報機器の基本操作の研修を行う。	ICTの活用方法やソフトの紹介、研修が参考になった。ICTを活用した授業を実践した。	情報教育課
	関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実			
ウ	(7) 実践的なキャリア教育の実施	小学部中学部の系統的なキャリア発達を確認する。将来の生活を意識した体験・見学等を実施する。キャリア教育に関する情報提供を行う。	児童生徒・保護者の卒業後の生活や将来の希望を意識した、授業実践や啓発ができた	各学部 地域連携・進路課
	(イ) 関係機関と連携した進路指導	児童生徒の課題解決や進路選択につながる情報提供や、支援会議を開催する。定期的に、校内に連携支援情報を報告する。	必要な情報提供や、対象となる児童生徒の支援会議を実施した。連携支援の情報が、校内で共有できた。	地域連携・進路課 各学部

(3) <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	交流校における交流及び共同学習の推進			
	(7) 相互理解のための学校間交流	交流活動の打合せにおいて、両校の児童生徒が活動できるように協議して、計画的に推進する。学部単位で共通理解を図る。	相手校と、伊東分校の両方の児童生徒にとって活躍する場面や良いあらわれが見られた。	各学部 各学年
イ	地域における交流及び共同学習、地域資源活用の推進			
	(7) 地域資源を活用した分校理解の推進	地域資源を活用して、地域社会の人たちと触れ合い、分校に対する理解を深める。更に地域に出る活動の場を増やしていく。たよりやHP等にて、分校の活動を地域に発信する。	学習の場に広がりが見られ、児童生徒が地域の中で学ぶことができた。 地域の、分校に対する理解が深まった。	各学部 各学年 情報教育課
ウ	地域における特別支援教育のセンター的取組の充実			
	(7) 地域の教育力向上への支援	市教育委員会と連携し、幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の教育力向上のための支援をする。	巡回相談などの支援依頼に校内資源を活用して対応できた。	地域連携・進路課

(4) <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	信頼される学校づくり			
	(7) 不祥事ゼロ	不祥事根絶に向けた研修及び定期的な注意喚起を実施する。	加害交通事故・違反ゼロ	教頭 主事会
イ	多忙化解消に向けた業務改善の推進			
	(7) 会議等の効率化、業務の効率化	所要時間を決めて、会議に臨む。掲示板の活用、事前の資料配布、議題予告に努める。業務の洗い出しと担当の明確化、期限の提示に努める。	会議が時間内に効率的に実施された。自分の業務が明確化され、見通しを持って実施できた。	教頭 主事会 各学部 各学年 各分掌
イ	(イ) 定時退勤、残業軽減	週一回の定時退勤日、月1回の完全定時退勤日を設定する。	定時退勤日が実施された。	主事会

